



高橋秀+藤田桜 素敵ふたり

Takahashi Shu and Fujita Sakura: A Lovely Couple

東京 - ローマ - 倉敷 — 現代美術家と布貼り絵作家が歩んだ60有余年の軌跡

この展覧会は、そのタイトルが物語るとおり、高橋秀と藤田桜というふたりの作家の長きにわたる仕事を、ひろく紹介しようというものです。生命感あふれる有機的なフォルムで知られる高橋秀（1930-/ 広島県生まれ）は、画家を志し上京、さまざまな出会いのなかで道を切り開き、1961年に新人画家の登竜門である安井賞を受賞しました。一方、布コラージュを駆使した絵本原画で親しまれる藤田桜（1925-/ 東京生まれ）は、中原淳一が主宰する少女雑誌『ひまわり』の編集者として出発、やがて自ら手芸作家となって第一線で活躍し、1952年創刊の『よいこのくに』では37年間にわたり表紙を飾りました。1958年に結婚。高橋の創作を見つめ直したいという思いから、ふたりは60年代はじめにイタリアに渡り、以後ローマを拠点に活動します。高橋の造形に対する求心的な探究は開放的な色や形へと展開し、1993年にはローマ国立近代美術館で個展が開催されました。他方、藤田も新たに絵本や布コラージュ制作に取り組み、異国の暮らしのなかで見出した日々の喜びを作品へと昇華させていきました。2004年に帰国後は芸術教育にも力を注ぎ、倉敷市の沙美（さみ）海岸にアトリエを構え、若いアーティストを海外に送り出しています。ときに孤独と向き合い、喜びを重ね、互いに90歳前後となっても創造のエネルギーを発散しつづけるふたりの姿をその創作の軌跡とともに辿ります。

展覧会名 高橋秀+藤田桜 素敵ふたり Takahashi Shu and Fujita Sakura: A Lovely Couple

会期： 2019年11月2日（土）～12月22日（日）
休館日： 月曜日 *但し、11/4（月・振休）開館、11/5（火）臨時休館
開館時間： 10:00-18:00（入館は17:30まで）
入館料： 一般800（700）円 / 大高生450（350）円 / 中小生150（100）円
*（ ）内は20名以上の団体割引料金
* 兵庫県内の小・中学生はコロナカードの提示にて入場無料
* 4市1町（伊丹市・川西市・宝塚市・三田市・猪名川町）の高齢者割引有
（平日は60歳以上、土日祝は65歳以上）

主催： 伊丹市立美術館 [公益財団法人いたみ文化・スポーツ財団 / 伊丹市]
共催： 伊丹市教育委員会
協賛： ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜
協力： 日本通運、玉島テレビ放送
出品点数： <高橋 秀> 約50点（絵画約35点、版画等 約15点）
<藤田 桜> 約230点（雑誌・書籍等約90点、絵本原画約100点、布コラージュ約40点）
*展示の都合により変更になる場合があります

【関連イベント】

アーティスト・トーク“秀さんと桜さんに聞く”

11月2日（土） 14:00-15:30
講師： 高橋 秀+藤田 桜（出品作家）
聞き手： 橋本善八（世田谷美術館副館長）
会場： 美術館 1F 講座室
定員： 100名 *聴講無料 / 申込不要（要観覧券）

カップル割引“素敵ふたり”

「いい夫婦の日」のちなみカップルご来館者に割引実施
実施日： 11月22日（金）・23日（土）
*観覧券ご購入の際に「素敵ふたり」とご申告ください（ご夫婦以外でもOK）
*団体割引料金でご購入いただけます（割引の併用はできません）

ワークショップ“ひまわり人形をつくらう”

少女雑誌『ひまわり』の手芸コーナーで掲載された藤田桜さん考案のお人形をアレンジして作ります。
日時： 11月23日（土） 14:00-15:30
講師： 真重涼香（秀 art studio）
会場： 美術館 1F 講座室
対象： 小学5年生以上 定員： 20名（先着順）
参加費： 1,000円（観覧料込み）
協力： familiar
*電話または美術館 HP の申込フォームよりお申し込みください
*10月1日（火）から受付開始
*詳細は当館 HP をご覧ください

アートブック・フェア“素敵ふたり”

関西注目の古書店が、本展を切り口にアート系古書をセレクト。同時代のアート、デザイン、ライフスタイルなど厳選された本が並びます。
日時： 12月1日（日）・7日（土） 11:00-17:00
会場： 美術館 1F ロビー
出店： 居留守文庫、古書善行堂、トラベリン・グブックストア、ひなたブック、(本) ぼんぼんぼん ホホホ座交野店、古書みつづみ書房



高橋秀 Takahashi Shu (1930-)

老いてなお現役 *** ふたりの創作の軌跡



藤田桜 Fujita Sakura (1925-)

1930年、現・広島県福山市に生まれる。

旧制中学卒業後、画家を志し上京、一時期、現・武蔵野美術大学に籍を置くが、独学の道を選ぶ。

独立美術協会の緑川廣太郎に制作の手解きを受け、独立展に出品するようになる。

1957年頃から版画家・駒井鉄郎、画家・古茂田守介らと親交を重ねる。

1961年、《月の道》で安井賞を受章。しかし、日本画壇の有り様に疑義を抱き始め、海外で自身の制作を突き詰める道を選ぶ。

《月の道》1961年、東京国立近代美術館



1963年イタリア政府招聘留学生としてローマに渡る。

ローマを拠点に平面、立体、版画、モニュメントなど幅広いジャンルで活躍する。



ディスコティック・モナミ内装 (イタリア・ローマ) 1969年



四季・春夏秋冬 / Quattro stagioni ローマ地下鉄、オッタ비아ーノ サン・ピエトロ駅改札通路 (イタリア・ローマ) 1996年

1993年、ローマ国立近代美術館で個展開催。

1996年から倉敷芸術科学大学教授に就任、イタリアと日本を往復する。



真言律宗格本山 蓮華院誕生寺 多宝塔内装飾画 (熊本県玉名市) 2017年



《環》2019年、個人蔵

高橋秀の創造は、沙美海岸に面したアトリエで今日も重ねられている。

1925年、現・東京都豊島区に生まれる。

現・大妻女子大学卒業後、1946年に中原淳一主宰のヒマワリ社に入社、「ひまわり」等の編集に携わる一方、手芸ページを担当する。仕事の傍ら、田園調布純粋美術研究所でデッサンを学ぶ。



中原淳一・藤田桜「ひまわり人形の作り方」『ひまわり』第2巻第12号付録 (ヒマワリ社、1948年) (復刻版：国書刊行会、1988年)

©JUNICHI NAKAHARA/HIMAWARIYA

1958年 結婚



東京・新宿の写真館にて 1959年

1963年 イタリアへ



アルデア (ローマ県) の自宅の庭にて

2004年 帰国

倉敷市沙美海岸に居住
秀 art studio を創設、地域文化の発展に尽力する

2006年 秀桜基金留学賞創設

若いアーティスト育成のため秀桜基金留学賞を創設
10年間で28名を海外に送り出す



沙美海岸自宅にて 2019年

お互いに自分の世界をもっているんだから、ふたりで一つの世界じゃないんだな。一心同体なんて、そんなものではない。どこかに一つ、信頼し合う部分があるからこそ、放っばらかしていても、つながっているということじゃないかな。

(本展カタログ、高橋秀「素敵ふたりを訪ねて 衆さん、桜さんに聞く」より)

1950年フリーになり、少女・婦人雑誌、手芸誌、幼児絵本などに挿絵、手芸、童画などを発表。とくに1952年の創刊以来「よいこのくに」の表紙を37年にわたり飾る。



『よいこのくに』第1巻第1号 (創刊号)、学習研究社、1952年

1964年夫の留学に伴いローマに渡る。以後、日本の出版社に作品を送りつける。

1970年代から絵本や布コラージュによる絵画制作を開始。



《『びのっお』絵本原画 第3図》1971年、岡山県立図書館蔵



《ある夜の夢》1981年、クラブン株式会社

1994年、俳句を詠み始める。



《桜さんのおもちゃ箱》2010年、個人蔵



《初夏のなかま》2019年、個人蔵

布コラージュのほか、エッセイ執筆や俳句等、多彩な創作活動は今も続く。

広報用画像

高橋 秀

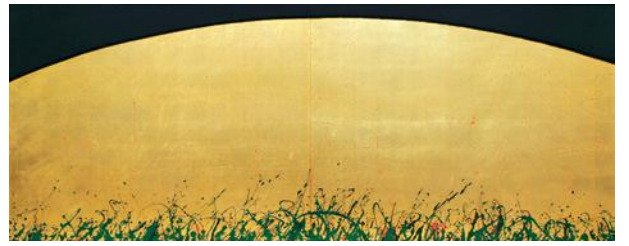
ちょっと心がくすぐられる、生命感あふれる有機的なフォルム



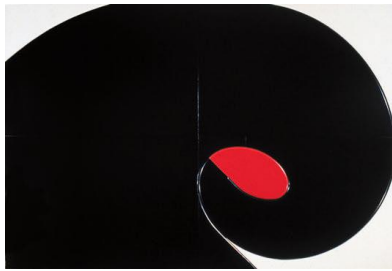
1. 高橋 秀《受胎告知 /Annunciazione》1970年、京都国立近代美術館



2. 高橋 秀《瞑想一白一 /Meditatione (bianca)》1976年、世田谷美術館



5. 高橋 秀《黄金の稜》2006年、山陽新聞社



3. 高橋 秀《呻一黒一 (Un-nero)》1995年、個人蔵



4. 高橋 秀《阿一黒一 (Ah-nero)》1995年、個人蔵



6. 高橋 秀《愛のアーチ /Arco dell'amore》ふくやま美術館前庭、1988年

藤田 桜

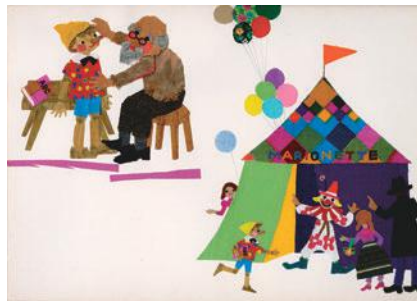
暮らしの喜びを作品に。遊び心に満ちた想像の世界



1. 藤田 桜 著『手芸と人形のエホン』東和社、1950年



2. 『よいこのくに』第1巻第1号(創刊号)、学習研究社、1952年



3. 藤田 桜《『びのつきお』絵本原画 第3図》1971年、岡山県立図書館蔵



4. 藤田 桜《『みずうみはなぜこえる』絵本原画 第4図》1972年、岡山県立図書館蔵



5. 藤田 桜《優しい気分》1998年、個人蔵



6. 藤田 桜《初夏のなかま》2019年、個人蔵

「高橋秀+藤田桜 素敵なふたり」展
広報用画像申込書

下記ご記入の上、FAXまたはメール（info@artmuseum-itami.jp 宛て）にてご連絡下さい。

なお、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展の招待券を読者／視聴者プレゼント用に提供いたします。併せてご記入ください。

画像データの使用に際し、下記の点についてご注意ください。

- ・画像データは申請された目的以外には使用しないでください。
- ・インターネットに掲載する場合は、無断転載禁止の旨を明記のうえ、ダウンロードできないように加工してご使用ください。
- ・営利を目的とした商品などへの掲載、会期終了後の掲載等、画像の二次利用や転載はお断りします。使用後は画像データを破棄ください。
- ・ご使用の際は、画像のキャプションならびにクレジットの表記をお願いします。
- ・部分使用やトリミング、図版の上に文字を重ねるなどの処理はご遠慮ください。
- ・本展記事をご紹介くださる際は、情報確認のため、校正を必ずお送りください。また掲載された刊行物、DVD、CD等も当館に一部ご寄贈ください。
- ・インターネットに掲載した場合は、URLをお知らせください。

*ご希望作品のチェック欄に「✓」を入れてください。

高橋 秀 作品

- 1. 高橋 秀《受胎告知 /Annunciazione》1970年、京都国立近代美術館
- 2. 高橋 秀《冥想一白一 /Meditatione(bianca)》1976年、世田谷美術館
- 3. 高橋 秀《呻一黒一 (Un-nero)》1995年、個人蔵
- 4. 高橋 秀《阿一黒一 (Ah-nero)》1995年、個人蔵
- 5. 高橋 秀《黄金の稜》2006年、山陽新聞社
- 6. 高橋 秀《愛のアーチ /Arco dell'amore》ふくやま美術館前庭、1988年

藤田 桜 作品

- 1. 藤田 桜 著『手芸と人形のエホン』東和社、1950年
- 2. 『よいこのくに』第1巻第1号（創刊号）、学習研究社、1952年
- 3. 藤田 桜『『ぴのつきお』絵本原画 第3図』1971年、岡山県立図書館蔵
- 4. 藤田 桜『『みずうみはなぜこおる』絵本原画 第4図』1972年、岡山県立図書館蔵
- 5. 藤田 桜《優しい気分》1998年、個人蔵
- 6. 藤田 桜《初夏のなかま》2019年、個人蔵

*チケット提供をご希望の方は、チェック欄に「✓」を入れてください。

チケットプレゼント用招待券（5組10名様分）

*チケットプレゼント以外でのご使用はご遠慮願います。

*10枚未満の枚数をご希望の方はご相談ください。

<御社情報欄>

掲載媒体名：

あてはまる種別に○をおつけください。 媒体種別：新聞／雑誌／フリーペーパー／テレビ／ラジオ／ネット媒体／その他

掲載予定日：

御社名：

ご担当者名：

Email：

@

ご住所： 〒

電話番号：

FAX番号：

[会場情報]

伊丹市立美術館 | 兵庫県伊丹市宮ノ前2-5-20

- 阪急伊丹駅より徒歩北東へ約9分、JR伊丹駅より徒歩北西へ約6分

- 阪急バス系統56 [阪神尼崎⇄川西ターミナル] 伊丹中央下車徒歩北へ3分

*美術館には専用駐車場はありません（宮ノ前地下市営駐車場等をご利用ください）

【本展覧会に関するお問合せ先】

伊丹市立美術館

tel.072-772-7447 fax.072-772-5558

http://www.artmuseumitami.jp

■ 展覧会担当：藤巻 ■ 広報資料請求：斎藤、玉澤